

ああ 遠くの空は 晴れている

NO30

南箕輪村教育委員会



本村では、各学校において「温かい学級づくり」に力を入れて取り組んでいます。

今回紹介する、牛越 充氏の「こんな先生にはなりたくない」の提言は、どんなに時代が進んだとしても、不易な部分として、子どもたちにかかわる姿勢として大事にしていきたい内容であります。

(※教育指導時報・・・長野県教育委員会事務局が県内の教職員対象に発行している教育雑誌です)

平成3年度 教育指導時報「教育随想」から

こんな先生になりたくない

牛越 充

自分の過去を振り返ってみて、教材研究の不足や力量不足を棚に上げて、子供を責めながら授業を展開したことのあった日を想い、深い反省に立たされることしばしばです。こんな先生になりたくないという願いをこめて、子供の立場から次の三つの詩をつくってみました。

一 それがつらいんだ

先生

なんで

良和君が答えを言うと

待っていましたとばかりに

「ハイ、そうですね。」

とニコニコしながら

やさしく返事をして

「ハイ、次へいきますよ。」

といって進んで行っちゃうの？

良和君の頭と僕の頭とは違うんだよ。

僕が考えようとする

次へいっちゃうから

僕はもう考えない。

姿勢をよくして

いたずらしないで

聞いていれればいいんだね先生。

先生

それがつらいんだよね。

それがむずかしいんだよね。

それができた時

たまには

ほめてよね 先生。

二 先生のおとく言葉

「わからないことは

「わからない」と

遠慮しないで、

なんでも聞きなさい。

わからないことは

はずかしいことじゃないんだよ。」

いつもおっしゃる

先生の

おとく言葉。

そう言うから

先生に質問すれば、

「きのう教えたでしょう」

「きのうやったでしょう」

「さっきやったでしょう」

「あの時、

聞いていなかったでしよう」

って、さつい言葉。

だから

もう質問しないの。

だから

だまっちゃうの。

三 学校を休んだ次の日

今朝はく顔見たら

先生なんて言うかな？

「良和君、もう風邪なおったか？

心配していたぞ。」

それとも

「良和君、きのう休んだので

さみしかったぞ。」

〇〇の時間の時こまったぞ。」

それとも

「良和君は弱虫だな。」

風邪だったか？

にんじんきらいなせいだぞ。」

それとも

しらんぷりしているかな？

欠席調べの時

先生が出欠簿を見たま言った。

「友夫君は今日も休みか？

良和君は来たな。」

それだけ。

校門の所で

美江さんが言った。

「風邪なおった？

よかったね。」

心配してくれた友達がいた。